

## <歩行披露する「メインウォーカー」(取材可能な方)>

(氏名/年齢/居住地、受傷原因/時期/部位、当日挑戦すること)



- ステージの端から端まで7mを、歩行器とトレーナーのサポートで歩き切る！

**池田 歩** (いけだ・あゆむ/25歳/埼玉) 柔道の試合/2010年/頸髄

「同年代の女の子にコンプレックスだらけだった。今はやりたいことだらけです！」  
 高校3年生のとき、柔道の試合中に寝技をかけられて頸髄を損傷、四肢麻痺に。現在は電動アシスト車イスで市役所にフルタイム勤務し、休日は友人や家族と出かけるなどアクティブに過ごす。免許取得、就職、と目標をクリアしてきた現在にしたいことは、留学、大学進学、様々なスポーツへのチャレンジ、ピアノをまた弾くこと、さらにバックパッカーも！「4年間くらいは前向きになれず、同年代の女の子を見ると悔しかった。今も完全には受け入れられていないけど…。だから今前向きになれない人も、焦らず自分を否定せず、マイペースに生きて欲しいです。いつか必ず、アクションを起こせるときが来るから。」



- サポートなしの自力でステージ上を歩き切る！車イスなしでゴルフのスイングも披露したい。

**合津 洋一** (ごうつ・よういち/77歳/福島) 森林伐採中の事故/2007年/胸髄

「車イスで被災。日常を取り戻した今は、ゴルフの打ちっぱなしにデビュー！」  
 東日本大震災に車イスで被災した合津さん。日常を取り戻した今は、歩行器を使っての散歩、脊髄損傷者が切望する「立ったままのトイレ」もできるように。趣味だったゴルフの打ちっぱなしにもデビュー。「いつかまたゴルフがしたいなあ！」という想いを胸に、「杖で何とか歩ける」を「杖で普通に歩ける」にすることが目下の目標。「脊髄損傷の回復への道のりは甘くないけれど、継続でしか得られないものがある。まずは回復に向けてできることを地道に続けることが大切。諦めないで！」



- 手放しでステージの階段を昇り降り&ジャンプする！

**大下 顕子** (おおした・あきこ/48歳/神奈川) 交通事故/1988年/頸髄

「脊髄損傷、卵巣がん…。困難を乗り越え受傷後29年でも進化し続ける！」  
 受傷から22年後に機能回復トレーニングを開始したにもかかわらず、目覚ましい変化を遂げていた大下さん。しかし今度は卵巣がんが襲われ、1年間トレーニングができなくなってしまう…。それでも「必ずうまくいく」という強い意志でそこから更に飛躍、長年の目標だった乗馬も楽しめるように！現在はフルタイムで勤務し会社では電動車イスや杖で過ごしている。「外出時にエレベーターや障害者用トイレがいっぱいということが頻繁にある。本当に必要な人が必要なときに使えるように、もっと生活しやすい社会になるように、こういったイベントを通じて世の中の理解が広がることを願います。」



- 毎日の頑張りの成果。「自分なんて」という思いを希望と自信へ。

**瀧口 宏** (たきぐち・ひろし/50歳/神奈川) シーカヤックでの転覆/2009年/胸髄

「1歩に4年。7m歩くのに7年。でもいつかもう一度、トレイルランをしたい！」  
 「生きていてくれてよかった」。妻や仲間の想いに支えられ、7年かけてようやく、歩行器とトレーナーのサポートで7m歩けるようになった不屈の人・瀧口さんは、平日は車椅子で仕事に励み、休日は家族や仲間とシーカヤックやキャンプ、旅行を楽しむ生活を送っている。最終目標は、もう一度「立って・歩いて・走って」トレイルランの世界に戻ることに。「脊髄損傷者がもう一度立って歩くことが今は夢物語じゃないことをみんなに知ってほしい。奇跡でもなんでもなく、科学的なトレーニングでここまでやれるんです。」



- 歩行器で立ち上がる！トレーナーのサポートで数歩歩く！

**長田 大輔** (ながた・だいすけ/23歳/大阪) バイク事故/2011年/頸髄

「日付を越えて飲んだり旅行をしたり。“ケイソン”は敗北じゃないと証明する！」  
 彼女や友人と飲みに行ったり日付をまたいだり、旅行をしたり。周囲のサポートを得ながら、同世代がしていることを実現していく日々。一人でどうやって生きていくか？を考える最近では、自分でできることを増やして一人暮らしすることを夢見ている。「このままでは終わられへん。諦めたらそこで終わり。他人に何を言われても、諦めなければ何でもできる！不可能を可能にするのが一番楽しい、人生楽しんだもん勝ちです。そして、進化している姿を見せて、支えてくれている人たちに恩返ししたいです。」

## <タップダンスにチャレンジする杉原紘人さん>



高校ラグビー部の試合中に脊髄を損傷し、医師から「再び歩くことは難しい」と宣告されるも、不屈の精神でトレーニングに励み杖歩行ができるまでに回復。「限界はない」というメッセージを広く届けるため、大学2年生の2015年9月に富士山に自力で登頂、その後も様々な挑戦を続けてきました。その様子をなんと、アメリカの学生がドキュメンタリームービーとして公開！そして今回、4月から社会人になるのを前に、集大成としてタップダンス披露を決意！プロのタップダンサーによる“杖を活用した振り付け”をマスターすべく、目下猛練習中です。

↓これまでの軌跡や最新情報はここから。

■杉原プロジェクト <http://sugiharaproject.businesscatalyst.com>

■FB ページ <https://www.facebook.com/sugiharaproject/>

↓タップダンスへのストーリームービーはここから。

<http://urx2.nu/GPqM>



## <トークセッション登壇者>



乾 亮太郎（いぬい・りょうたろう / 22歳 / 東京）

テーマ「YOLO - You Only Live Once」

甲子園を目指す高校野球球児から一転、交通事故で車イス生活となった乾さんは、大学進学を果たしたり、海外留学 / 海外でのボランティア活動に挑戦をしたり、居酒屋でアルバイトをしたり、卒業後はスポーツマネジメントの仕事に就く夢のため単身上京し専門学校へ入学したりと、とにかく明るくアクティブ。したいことが突然できなくなる苦しみを味わった経験から、“何かに挑戦しようと考えている人”へのメッセージ。「まだ22年しか生きていないけれど、誰よりも自分の人生を愛し誇りと自信を持っています。たくさんの人のサポートを受けながらも、自分の意志で生きています。当日は、“YOLO”についての熱い想いを発表します。」



白倉 栄一（しらくら・えいいち / 45歳 / 茨城）

テーマ「第2の人生としての起業」

12年かけて、日本一周をしながら全国のバリアフリースポット1,000件を現地調査した白倉さんは、“バリアフリー大魔王”として知られる存在。このほど21年間のサラリーマン生活に終止符を打ち、バリアフリーコンサルタントとして起業！「自分だからこそできる仕事に挑戦したかった」「長年の企業勤めで培った人事・総務・教育・お客様対応のノウハウを活かしたい」と語る白倉さんが、起業に至ったいきさつをお話します。



赤坂 航（あかさか・わたる / 19歳 / 東京）

テーマ「自立にむかって」

高校1年生のときにトランポリンで車イス生活になるも、復学・卒業を果たし、2018年春に大学入学を控える赤坂さんは、「受験を断られるなどバリアの多さに驚いた」と言う。いつの日かの自立を目指し国立障害者リハビリテーションセンターで訓練に励む現在の心境を語ります。